公益財団法人 吉田育英会

〈事業のご案内〉



YOSHIDA SCHOLARSHIP FOUNDATION



「変える勇気」「変えない勇気」で時代を切り拓く

吉田育英会は、YKKの創業者吉田忠雄によって、1967年に設立されました。YKKには、吉田忠雄の掲げた『善の巡環』という精神があります。「他人の利益を図らずして自らの繁栄はない」という考え方で、その精神が、人財育成を通じた社会貢献活動の形で実践されてきたのが、この吉田育英会です。

さて、近年の世界情勢に目を向けますと、新型感染症が社会のあり方を大きく変え、武力紛争が国際秩序を揺るがしています。これまでの常識や経験が通用しない、想定外の事象に直面することも多くなっています。このような状況では、勇気をもって変化に対応することと、初心を強く持ち続けること、すなわち、「変える勇気」と「変えない勇気」の二つが求められるでしょう。

今後も当会は、『善の巡環』の精神のもと、充実した支援内容の奨学金プログラムと様々な交流機会の提供を通じて、学業や研究の成果を社会に還元するという強い意志を持つ若者の夢を応援してまいります。激しく変化する時代にあっても、私どもの姿勢が変わることはありません。

当会は設立以来、3,800名を超える奨学生を支援してきました。幅広い専門分野の多様な会友（奨学生OB・OG）が世界中で活躍されています。奨学生・会友の皆さんが、21世紀の世界を担うリーダーとして、この困難な時代を切り拓いていかれることを期待しています。

関係者各位におかれましては、当会に一層のご理解ご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

吉田 忠裕

公益財団法人吉田育英会
理事長

【奨学金の理念】

吉田育英会は、未来のリーダーとして国際舞台で活躍し、成果を社会に還元できる人材の育成を目指しています。
優秀な学生が、勉学や研究のチャンスに心置きなく挑戦できるよう、進学に先だって選考・採用を行い、高水準で返還不要な奨学金を提供します。

【設立者 吉田忠雄と『善の巡環』】

YKKの創業者吉田忠雄は、事業をすすめるにあたり、企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより社会からその存在価値が認められると考えました。YKK精神『善の巡環』は、「他人の利益を図らずして自らの繁栄はない」という吉田忠雄の考え方です。

吉田忠雄は、世界を視野に入れた事業活動を通じて、国際舞台で活躍できる人材を広く育成、教育することが重要であるとの強い想いに至り、1967年に当会を設立いたしました。



吉田育英会設立者・吉田忠雄 略歴

1908年　富山県魚津市に生まれる
1934年　YKKの前身となるサンエス商会を東京・日本橋に創業
1945年　東京大空襲により魚津に疎開、再興を図る
1954年　富山県黒部市にファスナー一貫生産工場建設着手
1959年　ニュージーランドに第一号海外現地法人を設立
1961年　アルミ建材の生産・販売を開始
1974年　米国ジョージア州で海外初のファスナー一貫生産工場稼働
1984年　社長として創業50年を迎える
1993年　逝去（享年84歳）

【奨学金事業】

【国内プログラム】

■ 大学院生給与奨学金〈マスター21〉

国内の大学院修士課程（博士前期課程）において自然科学系分野を専攻する日本人学生に対し、在学中の奨学金を支給します。

■ 大学院生給与奨学金〈ドクター21〉

国内の大学院博士後期課程において自然科学系分野を専攻する日本人学生に対し、在学中の奨学金を支給します。

【国際プログラム】

■ 日本人派遣留学プログラム

海外の大学院博士課程等に留学し、人文・社会科学系または自然科学系分野を専攻する日本人留学生に対し、奨学金を支給します。

■ 受入留学生給与奨学金〈YKK リーダー21〉

日本の大学院において自然科学系分野を専攻する外国人留学生に対し、在学中の奨学金を支給します。

■ カーターセンターインターンシップ奨学生

カーターセンターは、カーター元米大統領によって設立された国際NGOです。インターンとして調査研究に携わる日本人留学生を同センターに派遣し、奨学金を支給します。

■ フルブライト奨学金

日米教育委員会の実施するフルブライト・プログラムを通じて、日米の奨学生に対して奨学金を支給します。

国際感覚を養う環境を与えてくれた吉田育英会



柚原　誠（ゆはら まこと）さん
2003年度採用／マスター21
奨学期間：2003年4月～2005年3月
奨学期間中の在籍大学：
筑波大学大学院システム情報工学研究科
構造エネルギー工学 修士課程

マスター21奨学生として吉田育英会から支援を受けたことで、大学院では研究に専念することができました。マスター時代の恩師には「英語を使いこなし、国際感覚を常に意識するように」と厳しく指導され、国際学会で2つの研究結果を同時に発表するという、稀有な経験にも恵まれました。苦労もありましたが、名だたる研究者を前に発表できたことで自信につながり、今の自分が物怖じせずに海外で仕事をし、お客様と交渉できるようになったのは、あのときの経験なしでは語れません。

選択肢は閉ざさず経験を俯瞰する



小川 玲奈（おがわ れいな）さん
2005年度採用／ドクター21
奨学期間：2005年10月～2007年9月
奨学期間中の在籍大学：
東京工業大学大学院総合理工学研究科
博士後期課程

元々は機械工学が専門でしたが、修士課程で東工大の精密工学研究所を母体とする専攻に移ります。そこで異種の素材を接着するには樹脂が必要ということで、接着剤の材料力学研究へと移行。その研究でドクター時代に支援を受けました。当初、接着剤の研究者として仕事を続けるつもりでしたが、キャリアを重ね、自らの経験を俯瞰できるようになり、それを活かせる場所は他にもあることを知り転職しました。近年は生活の中で科学的な視点での判断が日常的に必要になっています。そこで今後は科学のことを一般の人にもわかりやすく、正しく伝えられるように、発信をしていきたいと考えています。

異文化圏で積んだ貴重な経験



今野 諒子（こんの りょうこ）さん
2012年度採用
日本人派遣留学プログラム
奨学期間：2012年9月～2015年8月
奨学期間中の在籍大学：
パリ・ソルボンヌ大学大学院 博士課程

私は17世紀の哲学者ライプニッツの研究のため、フランスのソルボンヌ大学に留学し、彼の思想を探求してきました。留学前は海外での研究生活は「ゼロからのスタート」と考えていましたが、現実は「マイナスからのスタート」。異なる文化を深く理解し真摯に取り組むことの重要さを痛感し、複数の文化圏を横断して成果を上げてきたライプニッツの生き方の凄みを実感しました。今後も彼が科学をどのように制度化し、社会貢献につなげようとしていたのか、考察を続けていきます。

The scholarship allowed me to pursue my dream



Gaby Almira さん
YKK Leaders 21/Awarded in 2015
Scholarship period:
April 2015 - March 2017
University during Scholarship period:
Graduate School of Science, Osaka University

I got my bachelor's degree in Chemistry from Institut Teknologi Bandung, Indonesia. Even after graduating and working in Jakarta, I still wanted to pursue more knowledge in Chemistry by getting a master's degree in Japan. However, I had no funding and was struggling to find a scholarship. Until finally, I found the information about the Foundation, and I decided to apply under their YKK Leaders 21 program. I was lucky to be selected as one of the awardees, and I am forever grateful for this scholarship that has allowed me to pursue my dream.

人生の糧となる経験と出会い



伊藤 恵美（いとう めぐみ）さん
2002年度採用
カーターセンターインターンシップ奨学生
奨学期間：2002年9月～2003年5月

学部生時代のウガンダへの留学経験から、アフリカとの関わりを持ち続けたいという思いが膨らんでいきました。そんなときに出会ったのが、吉田育英会のカーターセンターインターンシップです。カーターセンターでは、様々な国からやってきたインターン生と切磋琢磨しながら、国家間の紛争解決に関わる貴重な経験を積むことができました。また、アメリカ南部での生活を通じて、アメリカを多面的に捉える視点を持つこともできました。この経験と出会いが、国際NGOや国連職員など、世界を舞台にした仕事に繋がっています。









【交流事業】

吉田育英会では、奨学生を対象に交流事業を実施しています。交流会や研修旅行等の機会を通じて、奨学生が互いの理解を深めることで、奨学期間終了後も末永い交友を結ぶことを期待しています。交流会では会友（OB・OG）の皆さんから現役の奨学生にアドバイスや励ましの言葉をいただくこともあります。

また、交流事業の一環として、会報誌『環[WA]』を発行しています。新規採用者の紹介や交流会のレポート、会友による座談会やインタビュー等の記事を掲載し、誌面が奨学生や会友の皆さんの交流の場となることを目指しています。

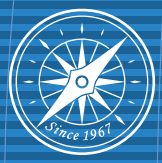












Yoshida Scholarship Foundation

http://www.ysf.or.jp

公益財団法人 吉田育英会
〒130-8521 東京都墨田区亀沢3-22-1 YKK60ビル内
Tel: 03-5610-8103　Fax: 03-5610-8104
Mail: webmaster@ysf.or.jp

2022/07/01